

第2回 旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会（議事概要）

- 1 日時 令和2年8月3日（月）午後2時～午後3時50分
- 2 場所 市役所本庁舎2階 多目的室1（麒麟 Square）
- 3 出席者 （1）委員（Web 会議1名）
柳委員長、福山副委員、飯野委員、木田委員、堤委員（Web 会議）、湯口委員
（2）事務局
高橋企画推進部長、渡邊政策企画課長、平田政策企画課課長補佐

4 内容

●委員長挨拶

今回は鳥取市の将来の方向付けと、今後の行程表についてどのように市民の意見を集めるのか議論をしていきたい。

●委員からの主な意見

- 事務局 資料1は鳥取市の基本情報を専門会員に再度周知するものとして作成しており、また10月から行う予定の市民との意見交換の場で配布する資料として考えている。
- 事務局 資料1はホームページ等での公開だけでなく、ワークショップ等で配布することを前提にして作成している。
資料1の説明。
- 委員 今回の説明に対して何か意見や質問等はないか。
- 委員 市民説明会での資料のたたき台ということだが、当日は先ほどのように時間をかけて詳細な内容を説明するという方法で行うのか。
- 事務局 市民の方には多くの意見をいただく時間を取りたい。今回は委員に中身を確認してほしいため少し長めの説明になった。
- 委員 このような市民から意見をいただくような場合の資料づくりは非常に難しい。詳しい市民もいれば、言葉が難しくわからなかったと言われる方もいる。示した数字がどう市民生活に影響するのかを少し丁寧に説明することが必要。当日説明する時間がなければ、レジメに事前に書き込むことも1つの方法。
- 委員 仮説を立てすぎて誘導するのも良くないと思うが、鳥取市の現状はこうなので課題は特にこうであるとか、伸ばしていきたいことなどを補足して説明すると議論がしやすいのではないか。この状態で渡されても住民はフリーハンドで考えなくてはいけなくなる。ある種のシナリオを考える必要はある。
- 委員 ある程度の方向性を示さないままワークショップで聞いても答えが分散して終わってしまう可能性が高い。課題は色々あるがどこを目指すのかというのを決めておいたほうがよい。例えば、アンケート結果を用いて重点分野なのか全分野を話し合いたいのか、強みを伸ばしたいのか、または弱みを改善したいのかなどといったある程度の方向性を示さないといけない。鳥取市としてどうしたいのか。市民の方に提案しないと、どうしていいかわからないで終わってしまう。
- 事務局 総じて、市民の意見を伺う時にポイントになる部分を明確にすることが必要ではないかという意見かと思う。本市としてもどのようなことを議論していただきたいかをまとめていく。

- 委員 メリハリをつけるという意味で、重点箇所は文字のポイントを変えるなどすれば良いと思う。全体的には様々な内容を網羅していると思うので、より分かりやすい資料になるように心掛けてほしい。
- 委員 全体的に見せ方を考えなければいけないという話だと思う。この内容のまま渡したのでは市民も読んでくれない。ページ数を絞ることや強み弱みをどうするのか落としどころを考えることなども必要である。
- 委員 資料8ページの市民アンケートについて、60歳以上の回答者が全体の47.2%ということで、ある程度高齢者バイアスがかかっていると考えられなくもない。市全体で平均を取ることは1つの方法ではあるが、将来のことを考える場合には、40歳以下とそれ以上に分け、回答にずれがないかを考えないといけない。高齢者をないがしろにするという意味ではないが、ある程度認識のズレがあるということを考える必要はある。
- 委員 そのような場合、どう対応するのが良いのか。
- 委員 簡単なものとしては加重平均、ウェイトをかけるという方法がある。
- 委員 資料2の説明をお願いします。
- 事務局 市民との意見交換会の実施方針について記載している。市民意向把握の実施については新型コロナウイルス感染症の影響もあり、様々な方法を検討している。委員の皆様からも多くの意見をいただきたい。
- 事務局 **資料2**の説明。
- 委員 説明について意見や質問はあるか。
- 委員 広報のやり方について、市報も1つの方法だが、市報を読む人の中でもしっかり読む人とそうでない人との偏りがある。いろいろなチャンネルを検討したほうがいい。質問だが、意見交換会やワークショップなどそれぞれの目的やねらいについて、これから跡地活用を進める上での仲間づくりなども想定されているものか。
- 事務局 広報のやり方は市報以外にも様々なものを考えていく。今回3種類の意見交換のパターンを考えている。ねらっているのは複数の意見をいただくことで、市民の意見を聞きながら今後の活用や、どのように関わっていきたいかという意見も聞きたい。
- 委員 三つ伺いたい。一つはまとめ方。誰がまとめるのか、どういうふうにまとめるのが難しい。決めておかないと。例えば各種団体の誰がまとめるのか。実際に意見交換会をした時のまとめとして、2、3案にまとめると思うが、複数案出てきたらどうするのか。
- 事務局 複数の意見が出ることは想定しているが、その場で結論を出すものではない。意見交換会については団体として最初にアンケートという形で意見を提出していただく。意見交換会の場では必ずしも代表者が出てくることは想定していない。出た意見はある程度の複数案にまとめ、それを専門家委員会等で集約していく。
- 委員 今の話だと専門家委員会できりまとめを行うということか。
- 事務局 それぞれ多くの意見が出てくるものと想定している。出た多くの意見をこの専門家委員会の場に出し、そこで議論をしていただくことを考えている。
- 委員 意見交換会ははしていいと思う。ワークショップについてはある程度まとめていただくことが重要である。もっと言うと色々な意見がある中でどれを押してどれを引くか調整をしてもらうことがとても重要である。専門家委員会で諮るのは私たちの責任が重いかなと感じる。二つ目はワークショップの回数について、普通は2、3回

行うものではないかと思うがその辺りはどうか。

■事務局 今年度はまず各種団体等から意見を聞き、次にそれを専門家委員会に出す。来年度にはなるが、具体的に集約したものを再度出し意見交換会等で議論していただくことを想定している。

○委員 三つ目であるが、意見を出していただいたものを共有するということが重要である。例えばワークショップで出た意見を意見交換会で共有するなど、3つの意見交換会の中で共有したらよい。となると、回数が1回だとどうしても先に行われた会の意見を後で行われた会の方が聞くことになってしまう。3つの意見交換会で内容を共有する仕組みがあればと思う。

■事務局 各種団体に対して取りまとめた意見を共有することは想定していなかった。専門家委員会でもまとめたものを次のワークショップ等で改めて提示することは予定している。

○委員 実際にはきれいごとでは進まないこともある。対象地周辺の地権者の意見を一定程度把握することが必要になる。跡地を活かすことによって自分たちの資産価値を上げようとか、相乗効果をもたらすような地権者の取り組みがまちづくりとしては望ましい。時間のあるときに市にそのような調査をしてほしい。もう1つ、5年でも10年でもいいが、同じ鳥取市内で居住地を変えた人が、どういう理由でどこからどこへ移動したのかということはデータとして持つておく必要がある。その移動理由が、その土地の評価やニーズを表している。それから一部のエリアに対して焦点を当てすぎることが弊害をもたらすのではないかと少し心配している。ミクロな部分と俯瞰的な意見の聞き方もスタンスとしてもってほしい。

○委員 周辺住民の利害が絡んでくるということと、住みやすさが西側に移っているのではないかという点で、市として何か考えはあるのか。

■事務局 本市としても地元の意見をしっかり聞きたいという思いがある。併せて、東部西部南部といった市全体の意見も聞きたい。ストリートミーティングもエリアを限定しているわけではないので、もっと俯瞰的に皆さんの意見も聞いていきたい。

○委員 通常ワークショップ等をするなかでは、とりわけ土地の資産価値に係るような内容の場合、なかなか本音の意見は出てこない。実際にまちを動かそうと思った時、その資産がどれだけ有効に活用されるか、どれだけ収益を上げるかなどが大切になる。今後市が施策を考える上でも、周辺地権者の本音の部分をどこかで押さえておく必要がある。

○委員 資料1で検討スケジュールに意見交換会等と市民アンケートとで時間差があるのはなぜか。

■事務局 10月11月の意見交換会等で意見を取りまとめ、その後専門家委員会に諮りたい。次の段階として市民アンケートの内容を提案し、専門家委員会でも意見をいただいた上で市民アンケートを実施したい。

○委員 ずっと前から関心のある方もあり、市民からの意見を聞く窓は常に空けておくことが良いと思う。インターネットや政策企画課内に用紙を用意するなどし、意見を言えないという状況はつくらないほうが良い。意見はワークショップ等でも活用できる。その際は少しテーマを絞っても良いと思う。

○委員 今の件について何か市でアイデアはあるか。

■事務局 常に意見をいただけるようなものを前向きに検討したい。

- 委員 その時は目的や状況がわかるような補助資料をつけてほしい。
- 委員 ストリートミーティングに期待している。若い人は特に色々な意見や発想をもっていると思う。感染症対策のため必ずしも集合せず、オンラインで様々な人から意見を集めてほしい。市内高校の数はいくらか。
- 事務局 私立を含めて10校ある。
- 委員 10月までは短いので、活発な意見を引き出そうと思ったら早い段階でいろんなアイデアを検討してほしい。
- 委員 UJIターンの団体の意見も聞けたら良いと思う。
- 事務局 ストリートミーティングの中には移住者もいる。基本的には若い方をピックアップできればと考えている。
- 委員 移住者もいいが、Uターンで帰ってきた人からの意見もほしい。
- 委員 オリエンテーションをし、日を置いてアンケートを取るということでいいか。
- 事務局 関係団体との意見交換会においては、ステップ1、2、3と別の日で行う予定としている。ワークショップとストリートミーティングは1日で終わらせる想定をしている。
- 委員 ストリートミーティングではいきなり機能どうこうと言われても、プロでもなかなか即答できないと思う。準備が必要という気がする。ワークショップやストリートミーティングがただ個人の意見を聞くだけならいいが、今後の展開で具体的な方向にもっていくのであれば準備が必要で、回数も1回では厳しい。事前に準備がしてあれば何とか1回でも可能かもしれない。
- 事務局 できるだけ早めに資料を提示して、意見をいただけるようにしたい。
- 委員 ワークショップで定員最大50名とあるが、人数が多かった場合に鳥取市である程度選定を行うのか。
- 事務局 選別をすることは難しく、心苦しいということもあるので、人数が多くなった場合には回数を2回に分けるなどの対応をしたい。
- 委員 母集団の選定について委員より意見を伺いたい。
- 委員 人口比、エリア、年齢階層を考えることは必要だが、ごくごく普通のやり方でいいと思う。
- 委員 母集団について偏らないようにサンプリングをしてほしい。
- 委員 私がワークショップをする時はいかに小中高生を呼ぶかということがポイントになる。小学校高学年くらいからは十分議論できると思う。
- 委員 中学生は執行部という行政のような組織が活動している。中学生くらいになれば議論はできる。中学生は鳥取から出たことがないという純粋な面もあり、いずれ鳥取に帰ってくるというふるさと教育にもつながるものになる。仲間づくりという視点でもプランとしてあっていいのではと思う。
- 委員 次のその他に移る。
- 事務局 第3回の専門家委員会の日程について確認をしたい。ワークショップ、ストリートミーティングを10月11月ごろ、その意見をまとめ、委員に見ていただくのは12月中旬を想定している。改めて日程調整をさせていただく。
- 委員 次回は12月実施ということでよいか。意見をフィードバックするというのも大事だが、それで間に合うということでいいか。
- 事務局 12月を目途に整理する。

- 委員 問題はどんな内容をフィードバックするかということ。おそらく想定しているのはどんな意見が出たか、というものだと思う。
- 事務局 お見込みのとおり。意見の羅列ではなく、事務局でまとめ整理する。
- 委員 委員会自体は12月に報告を受けるということでよいと思う。やり方についてももう少し具体的に決まった時点で報告を受けたい。そのまま進んでしまうと収集が付かなくなる気がする。
- 事務局 できるだけ早めに提示して、必要であれば専門家委員会の招集も検討し、議論をお願いしたい。
- 委員 12月の専門家委員会の前に、どういう状況になっているかを一度報告いただく。その他特に意見はないようなので、事務局に進行を返す。
- 事務局 12月の会議が実りのあるものになるように、資料を早くまとめ委員に送付したい。他都市の参考事例なども早急に配布したい。そのほか何か意見等はあるか。
- 委員 資料13ページに各部局からの課題があるが、これを具体的に全て形にするのは難しい。この中から何を選ぶか市の職員にも議論してもらいたい。重点分野の改善につながっていくと思うが、この方向でいくというのを決めておかないと解決できない。まずは市の意見、改善案を。住民の意見や団体の意見だけでなく、市職員も一市民としてある程度自分たちにどう関係しているのか議論してほしい。
- 事務局 今年度については求められる機能ということで、できるだけ多くの意見をもらい、来年度は具体的な内容をまとめていきたい。その中で、先ほど意見のあった一市民として市の職員の声も反映できるように検討したい。
- 事務局 これで委員会を終了させていただく。
- 事務局 今回いただいた意見を資料に反映させてフィードバックをさせていただく。